

知事と区市町村長との意見交換会(狛江市)

令和2年9月17日(木)
14時30分～14時50分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事から一言、お願いいたします。

○**知事** 今日は都庁へようこそお出でくださいました。松原市長、都政運営にいつも御協力いただき、ありがとうございます。

コロナウイルスで日々何かとお互い忙しくしているかと思いますが、今日は来年度の予算案について、またやはりコロナ対策等もありましょうし、災害も昨年も大変でした。それから構造改革、これをしっかり都としても進めていきたいと考えておりました、新しい日常を定着させたり、サステナブル・リカバリーということ等も念頭にしながら、長期の戦略策定をしていきたいと考えております。今日は忌憚のない御意見や、また御要望を伺わせていただきたく、よろしくお願いたします。

○**行政部長** それでは松原市長、お願いします。

○**狛江市長** 本日はこのような機会を設けていただきまして、誠にありがとうございます。そしてコロナウイルス感染症が広がる中で、本当に小池知事には狛江市民の健康をお守りいただき、また生活、経済、こういったこと等の支援を本当に迅速に行っていただいたこと、深く感謝を申し上げます。まだまだこの感染症は、終息には至りませんので、引き続き御対応をよろしくお願申し上げます。

まず狛江市のPCR検査ということで、この拡大について、東京都の方でもいろいろ対策を練っていただいているところでございますけれども、東京都が示されました高齢者、障害者支援施設等へのスクリーニングを含むPCR検査の実施拡大をしていただくということで、ありがとうございます。

狛江市で医師会等の協力の下、東京都医師会で言われてございます人口1万人に1か所という検査の場所でございますけれども、狛江市も市が設置している所が1か所、そして医療機関が行う所が現在で9か所予定してございますので、これは10か所が設置できるのかなというふうに思っております。

人口8万3,000人でございますので、1万人に1か所、これは確実に対応ができるというふうに思っているところでございます。クラスターを防ぎ、早急に対応ができるということは、検査体制を整えていくということでございますけれども、ただし市民の安心ということでは、やはりこれだけでは十分ではないというふうに考えているところでございます。

濃厚接触者以外の接触者、いわゆる三次接触者とも言われるかもしれませんが、この方々をどうするか。その検査方法をどういうふうにしていくかというところの確立が大切だというふうに考えてございます。

今、PCR 検査ですと、大体一日とか二日置いて結果が出てくるということになりますけれども、他の検査でありますと、抗原検査とか、あるいは抗体検査があると思えますけれども、これは 15 分から 30 分以内で検査結果が出るということでございますので、これはやればクラスター化が防げ、また休園とか休校措置、また休業措置というのが短縮されるというふうに思うんですね。

こういった検査を狛江市でも実施をしていきたいなというふうに考えてございます。こういった検査に対応ということで、助成策を東京都としても何かございましたら、よろしくお願いを申し上げます。

また、言われている季節性のインフルエンザでございますけれども、この供給体制というのが、ちょっと私も医師会の先生とのいろいろお話の中で、そこまで本当にワクチンが準備できるかというところの心配がございます。

実は私が職員の時代の 2009 年、平成 21 年だったと思うんですけども、これを思い出しまして、その時、春先から世界中にこのインフルエンザが流行するという事で大騒ぎになりました。その年の 8 月に、沖縄で確か最初の死者が出たというふうに記憶してございます。それは真夏に広がりまして、1 週間に 11 万人が感染したというような話もございました。

この時に私も対応をしましたが、ワクチンの有効性とか、あるいは安全性っていうのは保障するものではないというようなことで、市の広報にもそれを書かせていただいて、それで優先順位を付けて、それで接種をさせていただいたんですね。

接種はその年の 11 月から開始したんですけども、実は 12 月の広報で、よくよく見返したんですけども、供給が足らなくなったんです。それで市民の皆様を混乱させてしまったっていう、そういう経過がございました。

今回は多分例年よりはワクチンの接種が多くなると思うんですね。それだけ供給量として足りるのかどうか。そういったところを東京都の方でも対策、あるいは確保をお願いしたいというふうに思います。

災害の方なんですけど、実は先ほど知事もおっしゃいましたけども、昨年の意見交換会で、ここで岸辺のアルバムということでいろいろお話をさせていただいて、情報を共有させていただきましたけども、この台風の被害の検証をようやくここでできまして、検証結果に基づいて狛江市はこれから対策をしていくと。これまでも対策はしてきたんですけども、実はお手元に一部しかないのですが、こういう検査結果がございまして、これに基づいてこれから市民説明会を明日、明後日でさせていただいて、そして対応をしていこうというふうに思います。

一定のことは出来たんですけども、ただこれと併せまして、やはり今後いつ起こるか分かりません地震対策というものがございまして、その時にもう既に知事にお話をさせていただきましてけれども、和泉多摩川の緑地の都立公園化についてでございますけれども、知事の方からも御協力いただけるということでございましたけれども、実はそこは災害時の防災公園として。

そしてもう一つは、人生100年時代でとか、あるいは青少年の健全育成、こういったことから、スポーツができる公園として。

もう一方では知事も言われてございますが、次世代に幸せと希望に満ちた社会、これを引き継ぐために人口維持に必要な水準である、合計特殊出生率2.07。これが実現するためにも、子供達の嬉しそうな声が聞こえるとか、あるいは親子がのびのび楽しめる、そういう公園として、是非ともこれから都民である狛江市民の期待が大きいですので、積極的に設置に向けて推進いただけますように、事務レベルでの検討を始められるような体制を整えていただければというふうに思います。

もう一点は、内水氾濫を防ぐためにはいろいろあると思うんですけども、それは貯留施設とか、貯留管とか、貯留の池とか、そういうものがあると思うんですけど、これは長期的にかかってしまうんですね。

早期に対応できるものとしては、まずはそのために排水ポンプ、これは市でも今増設をしています。ただ、大型のものがありませんよね。先日、世田谷区長と大田区長にもお会いさせていただきましたら、そこでは独自で排水ポンプ車を設置したって言うんですね。それだけの体力が区と違いまして市としてありません。そこに排水ポンプ車を東京都が配置をしていただければ、市でそれを運用する。それはできますので、是非とも御検討いただければというふうに思います。

今の新型コロナウイルス感染症の影響で、やはり婚姻を控えられているということもございます。少子化ということもあるんですね。その中でやはり結婚意識を高めるとか、そういった部分もしっかりやっていかないと、人口減になる東京の中で、やはりそこを少しでも緩和する、あるいは抑え込むということが大切だと思いますので、これ小池知事と私の考え方は一緒になっていますので、それは協力をいたします。それで知事の方も協力いただいて、その人口減少を抑えていきたいというふうに思います。

あとテレワークの推進ということで、サテライトオフィスを東京都としては多摩地域に3か所設置されていますけども、小さな狛江市の中で自然環境が良く、仕事の環境も良い中で、よろしければ4か所目を狛江市へと思っていますので、よろしく願いを申し上げます。

まだまだありますけども、こういうことで知事の方に要望させていただきたいと思いません。

○知事 コロナから少子化まで、幅広くいろいろとお話をいただきました。ちょっと順不同になるかもしれませんが、当方でこの場でお答えできるものについて、私の方、そしてまた副知事の方から述べさせていただきたいと思いません。

コロナ、喫緊の課題はやはりコロナでありますし、そのためにも陽性者がどこにいるのか、そういったことを確認するためにも検査は重要であります。

国の方は、地域における感染状況を踏まえて感染拡大を防止するという、その必要がある時は店舗とか施設に限らず、地域の関係者が幅広く行政検査を実施しているということでもあります。

都でも感染者が発生した時には特別養護老人ホーム、そしてまた障害者の支援施設等、施設の職員や入所者に対しましても PCR の検査等を実施した場合の支援について、明日からですけれども定例議会が始まります。そちらに補正予算案にそういった必要な予算を盛り込んで御議論いただくことといたしております。

それから、インフルエンザと同時流行した時は、非常に症状が似かよっているということもあります。そういった点から、まず既にワクチンがあるのが、インフルエンザでございます。量の確保については、都としてできることを進めているところではございますけれども、やはり高齢者の方には特にインフルエンザの予防のワクチン接種を受けていただくということが必要かと思っておりますので、これについてはまずは予算ですね、そのための予算も今回の補正の方に入れ込んでおりますので、これを活用していただく。でも物が無いといけないということですから、そちらの方は確保をして参りたいと思います。

○副知事 その他の御質問について、私からお答えをさせていただきたいと思っております。

まず和泉多摩川緑地のお話でございます。これについては例年御要望を承っております。多摩川の河川敷は、生活にゆとりと潤いをもたらす貴重な緑の空間であるということを十分認識しております。

都においても未来の東京戦略ビジョンにおきまして、水と緑溢れる東京戦略を掲げておりまして、関係区市町村と一体となって公園や緑地等の創出を目指していきたいと考えております。引き続き、狛江市さんがお進めになっている、都市計画和泉多摩川緑地の事業化に向けた課題の整理に、御一緒になってやらせていただきたいというふうに思っております。

それから排水ポンプ車の増強のお話でございます。東京都では都内各地の建設事務所に河川からの溢水等に対応するため、移動式排水ポンプ車を配備しております。これまでも都内各自治体からの要請をいただきまして、排水ポンプ車を出動させております。引き続き、東京都所有の排水ポンプ車を適時、適切に各自治体に派遣できるよう、きめ細かな運用に努めて参ります。

一番いいのは、こういう排水ポンプ車が出動しないような街づくりをするということではございますが、当面きめ細かな運用に更に努めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○行政部長 松原市長、いかがでしょうか。何かございますでしょうか。

○狛江市長 ありがとうございます。排水ポンプ車ですけれども、どうしても水が出る場所は決まっておりますので、それで市としてもその対応は必要な所はしっかりやっているんですけども、やはり市でできないようなことがございます。

昨年の台風 19 号のような大きな台風、こういった分には即対応できないというふうでございます。その時に国、都への排水ポンプ車の要請を行っても、実はなかなか来ていただけないというのが実情だと思うんですね。なるべく今まで被害が大きくあった場所等に、近くとくに配備をしていただければというふうに思います。

あと PCR 検査ですけれども、これについては今相当 PCR 検査というのはどんどん出来てい

る状況ではあるんですけども、やはりその中でも一番心配なのは、検査が受けられない人の対応ということで、それは先ほど申し上げましたけども、三次接触者になるような方々、その方々が何等かの検査を受けて安心をしないといけないということです。

一例でいけば、学校で何人かが陽性者が出たと。それで保健所の方では濃厚接触者を確定しますけども、濃厚接触者以外の方々の検査をどうするかと。だから即時に対応しなければいけないと思うんですね。全く関係ない人を検査するわけではなくて、濃厚接触者ではないけども関連するような人で、少し安心感を持たないといけないと。そこへ対応をする検査、これは抗原検査が有効なのかなというふうに思いますので、そういった検査にもお力添えいただければというふうに思います。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは最後に知事から一言、お願いいたします。

○知事 今も抗原検査の話がございましたし、またPCRの検査も東京中でしますと1,400か所、それぞれ地域の医師会等と連携しながら進めていく必要があるということで、着々とその準備はいたしているところでございます。

また検査の方法も、もう日進月歩でいろいろと新しい方式、唾液もそうでありますし、それによって経費がどれぐらいかかってくるのか等々、日々変わっております。やはりいろいろなやり方があるって、スクリーニング検査等で安く、安くって言うんでしょうか、確実に受けていただくような様々な工夫をしていきたいと考えております。

やはり今から必要なのはインフルエンザとの同時流行をどう防ぐか。特にお年を召した方は重症化しやすいものですから、まずはインフルエンザの方の予防接種を受けていただいて、そしてより重症化しない工夫をしていくということかと思っております。

日々コロナについては様々な研究も行われて、検査からワクチンはまだいろいろ世界の国際的な競争にもなっているところでもありますけど、また重症化しないためのお薬等についても、いろんな工夫がされているということです。

その前に罹らないための策を是非とも改めて、原点に戻ってと言いましょうか、消毒、手洗い、マスク、そういったことも市民の方にもしっかりと呼び掛けていただいて、まずは感染しない、させないということを徹底していただきたいというふうに思っております。

いずれにしましてもコロナとの戦いはまだまだ見えないところがありますけれども、それぞれ市民へ届くメッセージを送っていただくことで、そういったまずは予防から進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは以上で終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。